# 日日是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2020年8月12日水曜日

## HTTPヘッダーによる認証の制御について

Autonomous DatabaseのAPEXを使う際に、ホワイトリストを設定できないのか、という話がありました。現時点ではそのような機能は提供されていないのですが、HTTPヘッダーを参照することで、限定的には実装することができます。なぜ限定的なのか、というとHTTPヘッダーを誤魔化すのは、それほど難しい作業ではないからです。

とはいえ、何もしないよりはよいかもしれません。古くからのオラクル・ユーザーであれば、OWA\_UTILパッケージを知っている人が多いのですが、Oracle APEXでもそれが使えるということはあまり知られていないようです。ですので、OWA\_UTILパッケージのプロシージャなどを使って、HTTPへッダーを使った認証を組み込んでみます。

OWA UTILパッケージのマニュアルの記載はこちらになります。

まず、Oracle APEXのアプリケーションで参照できるHTTPへッダーを確認します。

空のページを作成して、それに新規にリージョンを追加します。リージョンの**タイプはPL/SQL動的コンテンツ**とします。



ソースのPL/SQLコードとして以下を指定します。

owa\_util.print\_cgi\_env;

このリージョンを含むページを開くと、Oracle APEXのアプリケーションで扱うことができるHTTP ヘッダーが出力されます。



エンドポイントの特定に使用できる情報は、X-Real-IP、X-Forwarded-ForといったHTTPへッダーやREMOTE\_ADDRのどれかになるでしょう。これらの情報はOracle APEXに限った話ではないので、それぞれどういった情報であるのかといった説明は割愛します。今回はX-Real-IPを認証の制御に使用することにします。

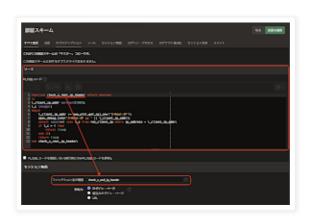
次に、認証スキームにコードを追加します。**共有コンポーネント**から**認証スキーム**を開きます。



カレントの認証スキームを開きます。くれぐれも本番稼働中のアプリケーションで作業をしないよう気を付けましょう。



PL/SQLコードとして、認証に使用するコードを追加します。そして、そこで定義したファンクション名をセッション無効のファンクション名の確認として指定します。



### ファンクションの記述は以下になります。

```
return false;
end check_x_real_ip_header;
```

あらかじめ、以下のDDLにて表RES\_CLIENT\_IPが作成されていて、列IP\_ADDRESSにアクセスを許可するIPアドレスが記載されていることを前提としています。

```
CREATE TABLE "RES_CLIENT_IP"

( "IP_ADDRESS" VARCHAR2(16),
    PRIMARY KEY ("IP_ADDRESS")

USING INDEX ENABLE

);
```

ファンクションがfalseを返す、つまりセッションが無効であると判断すると、移動先として設定されたページに遷移します。X-Real-IPとして渡されるIPアドレスが、あらかじめ表RES\_CLIENT\_IPに登録されていないと、ログイン画面から先に進めません。

実用的にするには、IPアドレスだけではなくワイルド・カードによる指定や、アクセスの許可、拒否にしたがってログを取得するなど、色々と考慮する必要はあります。今までの説明を元に、必要な機能を追加してゆくことになるかと思います。

完

Yuji N. 時刻: 14:26

共有

**、** ホーム

#### ウェブ バージョンを表示

#### 自己紹介

#### Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。 こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

詳細プロフィールを表示

Powered by Blogger.